

会 議 録

| | | | | | | |
|--------------------|-----|---|----|------|------|-----|
| 会議名 (審議会等名) | | 第 5 回 相模原農業振興地域整備計画検討委員会 | | | | |
| 事務局 (担当課) | | 農政課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 3 (直通) | | | | |
| 開催日時 | | 平成 3 1 年 1 月 2 1 日 (月) 1 3 時 3 0 分 ~ 1 5 時 4 0 分 | | | | |
| 開催場所 | | 相模原市役所第 2 別館 3 階 第 3 委員会室 | | | | |
| 出席者 | 委員 | 1 2 人 (別紙のとおり) | | | | |
| | その他 | | | | | |
| | 事務局 | 7 人 (津久井地域経済課長ほか) | | | | |
| 公開の可否 | | 可 | 不可 | 一部不可 | 傍聴者数 | 1 人 |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 | | | | | | |
| 会議次第 | | 1 開会 2 議題 改定後の相模原農業振興地域整備計画 (案) について (1) 津久井地域の概要 資料 (2) 旧城山町 (再説明) 資料 - 1 (3) 旧津久井町 資料 - 2 (4) 旧相模湖町 資料 - 3 (5) 旧藤野町 資料 - 4 3 津久井地域の説明を踏まえた意見交換 4 その他 5 閉会 | | | | |

審 議 経 過

会議次第のとおり委員長が進行をし、議題について事務局から資料 ~ - 4 を基に説明を行った。各議題の後では簡易的な質疑応答と補足説明を行い、すべての議題を説明した後、意見交換を行った。

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

- 2 . 議題 (1) 津久井地域の概要
 - (2) 旧城山町 (再説明)特に意見なし

- 2 . 議題 (3) 旧津久井町

金原まちづくり推進計画に沿って進めていく。鳥屋については2027年までリニア中央新幹線の車両基地建設が予定されているのでその計画の進行も注視する必要がある。

- 2 . 議題 (4) 旧相模湖町

実際も資料として示された写真のような状況となっていると思う。

新規就農者が多く就農している地区である。

- 2 . 議題 (5) 旧藤野町
- 特に意見なし

- 3 . 意見交換

3点ほど意見したい。

(1 点目) かつての農政は農村の生活を維持することに主眼が置かれていたため、現行計画には集会施設などの整備が盛り込まれているが、現代の政策では、産業支援と住民向けの生活支援を分けようという流れがあり、この計画でもその影響があるものと捉えている。

(2 点目) 全国的に人口減少していく中、相模原市も72万人から将来的に50万人になっていくことが推計されている。街としては小さくなっていかなくてはならない中、どうやって小さなまちづくりをしていくかということが、都市計画審議会でも考えなくてはならない事項として出てきている。その議論の中では、新たな拠点を作るのではなく、今までの中小規模の拠点を軸としてどのようにつなげて、ネットワークを確保していくかという視点が示されている。農産物の集積

場の整備にしても、どの地域から集積し、どの地域に移していくのか、都市間の関連性を考えながら計画を検討してほしい。

(3点目) ネット社会の時代。農業用機具・機械の中古品をネットで購入して小さな規模で農業を始める事例や、農協を介さずWEB販売で始めて年収1000万円を稼いだという事例がある。新しい農業ビジネスについても積極的に支援してもらえるとありがたい。

産業としての農業、という考え方は、極端な話をすれば植物工場があれば良い、となってしまう。人あつての農業であるという視点を忘れてはいけないと思う。地域社会活動の主役はサラリーマンではなかなか難しく、農地があり農家がいる、農業が行われているという「3つの農」があることが、地域社会を支えているという実態であり、全てがあつて農業振興であると思う。一方で、生活支援と農業支援を政策的には分けて考えるというのは方向性としてはあり得ると思う。

津久井地域は、斜面が多い、鳥獣被害が深刻であるなど耕作条件の不利地が多い。耕作放棄地の割合も3割を超えているところがある。近所でもイノシシの被害が一年中見られ畑も穴だらけという状況。農業振興地域の農用地区域への指定だけではなく、思い切った手を打つ、あるいは支援の強化がないと農業を守れない状況であると思う。提示された計画案について、評価できるところもあるが、不十分な部分について今後も是非検討してほしい。

鳥獣被害防止については、「相模原市鳥獣被害防止計画」の策定が控えているとのことなので、併せて検討してほしい。

農業用機械を導入し水稻を本格的に行う人が道志新田でもいるが、やはり天日干しでとなると規模をこなすのが難しいため縮小を検討している、という事例も聞く。また、旧相模湖町には新規就農者も入ってきたが、撤退してしまった。農家は一人親方という雰囲気があり、地域とどう結びつけていくか、難しいと感じる。説明の全体的な印象としては、あまり積極的な整備の内容は少ないと感じる。その中でも、金原土地改良事業については、拠点ができることによって周囲が活性化されるものと思うので、かなり期待できると感じる。

大日野原の農道整備については、農業委員会からも要望している。鳥獣被害対策の広域防護柵が設置されており広い農地であるため、是非整備を進めてほしいと思う。

改めて相模原市の市域が広いと感じた。相模川下流と山あいの方では様相が異なる。本日の説明で、山あいの方でも結構整備されている農地があるのだと感じたが、一方で耕作する人が少なくなってしまうもったいないと思う。鳥獣被害を何とかする必要があると感じる。一生懸命やっても収入が得られないと続ける

のは難しいと思う。

旧市域でもハクビシンやアライグマの被害がある。津久井地域はシカやイノシシなどで大変苦労していると思う。今後、市の鳥獣被害防止計画を策定するという事なので、鳥獣被害への対策に対して積極的な支援をお願いしたい。

この計画は農地の整備計画だと思うが、農業振興策も対象か。農業振興策も対象であるが、農用地区域の指定という面的な計画の中で、どういうものを目指していくのかという程度の内容となる。

計画案では広域防護柵に言及されていないが、整備予定のところを広域防護柵で囲うという施策や、新規就農者がいるということであれば、その人へ農地の集積を図るという施策がないと農地を守っていけないのではないかと。是非ともその二つを盛り込めるよう考えてほしい。

鳥獣被害が不耕作地を拡大している一つの要因である。現在、JAでは津久井地域で鳥獣被害防止のため箱罾を23機設置し、今後も10機購入予定である。また鳥獣被害対策の強化で猟友会との協力も必要である。これらに引き続き取り組み、新規就農者が営農しやすい環境整備が必要だと思う。

不耕作地を農用地の図面に落とし込むことはできるか。把握はしているが、この計画の中で落とし込むというのは難しいと思う。

施設の整備計画を廃止とすることは、ピンポイントで利用するだけのパワーが各地にないので致し方ないと思うところもある。一方で、金原地区で土地改良事業が進み、拠点整備され、多くの農業者が利用できるようになることを期待している。

検討委員会の委員だけでは各地域の要望は分からない。各地域の方や新規就農者など新しい感覚で農業をやっている人、今後の地域を担っていく人の意見を聞く機会を設けて、計画案を検討してほしい。

個別に農業者の意見を聞くのは難しいので、農協にも相談しながら、農業者の代表者が集まるような場を利用して説明する場を設けられればと考えている。

それは計画の策定前に行うということで良いか。

策定前に行う予定になっている。また、旧市と各旧町で状況の違いがあり、各旧町では農業者が組織化されているわけではないので、対応については農協と協議したい。

津久井地域は、旧市よりも状況は厳しいと感じた。

ただ、佐野川の茶園でお茶摘みの手伝いに参加したが、手伝いの受け入れと茶摘

みの指導を、企業がシステマティックに行っていた。その企業は、有機農業の農作業を手伝ってもらったお返しに宿泊施設を提供するというWWOOF（ウーフ）を利用し海外からの支援者を積極的に受け入れている。このような企業が新規就農者を募集したり、地域の農家を手伝ったりするという事例もあるので、そういう企業の誘致や企業の支援があっても良いのではないかと。それによって耕作放棄地の有効活用が図れるのではないかと思う。また、観光農園など集客することで相模原市の農業を知ってもらう機会を増やし、魅力を発信していくことができるのではないかと思った。

鳥屋など地域によっては、鳥獣被害を防ぎようがないところや、道がなく農業用機械が入れず、農機具を担いでいく畑のところもある。また、棚田で津久井在来大豆を作るという取り組みも行ったが、一つの田が3畝、5畝と狭い状況で、農業として稼いでいくことは難しい。そういうところではさすがに利用価値が見出しにくく、農用地区域を減らしたくないというのは理解できるが、農業経営をちゃんと成り立たせる、と考えるのであればある程度の畑の整理は必要であると思う。

一方で、農用地区域が外れたときに、農地が売却され家が建つという状況を招き、虫食い状態になってしまった。農地を絶やしてはいけないという思いで、私もそういうところを借りて耕作している現状である。

地域の意見を聞くということはやっていってほしいと思う。

本日出た意見は、農業振興策を主とする計画や鳥獣被害防止計画のように、別の計画で本格的に取り上げるような内容もあったと思うが、農用地区域の指定をされていてもちゃんと耕作されているわけではないという現実があることも踏まえ、この計画の策定に当たっても考えていく段階に来ているのかも知れない。

（委員長）

次回検討委員会の内容も含めて、今後の進め方についてはどのようになるか。

次回2月18日の検討委員会では、計画案の細かな表現のチェックではなく、計画案の方向性について最終的な意見をいただく予定。併せて、2～5月に地域農業者の意見の吸い上げ、農協や農業委員会への意見照会、市役所内の庁議、その後市議会の部会への提示、神奈川県審議会での審議などを経て、最終的には平成31年12月頃の策定、という流れを見込んでいる。

それでは、委員の方には、本日の資料 や、資料 など整備計画の変更内容を次回までに読んでもらい、次回検討委員会で計画案の方向性について意見をいただくということをお願いしたい。

以後、４．その他として、事務局から次回第６回は２月１８日開催（別途通知予定）であり、その結果を基に、３月に答申書を提出していただく予定である旨を伝え、閉会した。

以 上

第5回 相模原農業振興地域整備計画検討委員会委員出欠席名簿

| | 氏名 | 所属等 | 備考 | 出欠席 |
|----|--------|-----------------|------|-----|
| 1 | 安西 雄次 | 畜種農家 | | 出席 |
| 2 | 飯島 泰裕 | 青山学院大学社会情報学部 教授 | | 出席 |
| 3 | 江藤 啓子 | 公募委員 | | 出席 |
| 4 | 小林 康史 | 相模原市農業委員会 委員 | | 出席 |
| 5 | 佐藤 はつ子 | あぐりレディース | | 出席 |
| 6 | 竹本 田持 | 明治大学農学部 教授 | 委員長 | 出席 |
| 7 | 坪井 茂治 | 望地河原開田事業組合 組合長 | | 出席 |
| 8 | 菱山 喜章 | 相模原市農業委員会 委員 | 副委員長 | 出席 |
| 9 | 山野 和重 | 津久井郡農業協同組合 専務理事 | | 出席 |
| 10 | 山口 功 | 相模原市農業協同組合 常務理事 | | 出席 |
| 11 | 吉見 敦司 | 農事組合法人 つ組 | | 出席 |
| 12 | 若生 ひとみ | 公募委員 | | 出席 |